

ごあいさつ

鳥取県立博物館は、昭和47年10月の開館以来、鳥取県の自然、歴史・民俗、美術の3分野を有する総合博物館として多くの皆様に親しまれてきました。このたび開館50周年を迎えるにあたり、ここに本誌「50年のあゆみ」を刊行することができました。

開館当初は約5万点であった収蔵資料は、心ある県内外の方々からの寄贈や、学芸員の収集活動などにより充実してきた結果、現在その数は約20万点余りに及んでいます。収蔵資料は我々県民の財産であり、これを次の時代に引継ぐとともに、県民に開かれた博物館として、学芸員が調査研究したものを常設展や企画展で紹介したり、様々な講座等の開催、学校・地域と連携した学習支援活動等に取り組んでいます。

開館50周年においては、当館で収蔵している資料を可能な限り多く展示し、博物館の根幹にある資料収集と調査研究の50年を紹介する企画展「すべてみせます！～収蔵庫の資料たち～」を開催しました。10月には開館以来の常設展示の来場者数が200万人に到達したこと、夏に開催した「ティラノサウルス展～*T. rex* 驚異の肉食恐竜～」では当館主催の企画展における過去最高の来館者数を記録したことなど、新聞、テレビで何度も取り上げていただくとともに、SNSでも大きな話題となりました。このような開館50周年の取り組みを通して、改めて多くの皆様に鳥取県立博物館のことを認識していただけたと思っています。

しかしながら、開館後50年を経過し、施設の老朽化や収蔵庫の狭隘化をはじめとした多くの問題を抱えており、その対応を検討する必要があります。さらには、新型コロナウイルスが終息していない中における事業展開の方法、令和5年4月に施行される博物館法の改正への対応、ふるさとキャリア教育の推進、ICT活用教育の推進など博物館が果たすべき役割が増えてきており、そうしたことへの対応も検討したいと考えています。

ただ、こうしたことは博物館だけでは対応できないことも多いことから、博物館の魅力を地域に発信しながら、地域の皆様の声を聞き、地域と連携した取り組みが必要であると考えています。

本書の刊行は、当館のこれまでの活動成果を未来へ引き継ぎながらも、開館50周年を一つの節目として、鳥取県立博物館の今後を考えるための大きなきっかけになるものと確信しています。

当館では、「鳥取県の自然、歴史・民俗、美術等について、展示、講演、体験活動などにより、県民が楽しく学び、感動を覚えるような『魅力ある県立博物館』づくりを推進します。」というミッションを掲げています。今以上に県民の皆様にご信頼され、開かれた鳥取県立博物館を目指し、職員一同、日々努力してまいりますので、これからも当館へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月31日

鳥取県立博物館
館長 漆原 芳彦

凡例

- 本書は、鳥取県立博物館の開館50周年にあたり、これまでのさまざまな活動について6部構成によりまとめたものである。なお冒頭の沿革では、当館の前身である鳥取県立科学館(S25年～)、鳥取県立科学博物館(S29年～)から、現在に至るまでのあゆみの概略を年表形式で示した。
- 本文中の個人の敬称は、原則として省略した。
- 本文中の年代表記は、原則として和暦とした。本文以外のデータのな部分や、資料画像のキャプションなどでの年代表記はその限りではなく、和暦もアルファベットで省略している箇所がある。
- 「第3章 博物館事業の記録 (1)特別展・催物展・企画展」については、各年度、展覧会ごとに、展覧会種別、展覧会名、会期、入場者数、展示の概要、ポスター画像を掲載した。詳細はp.12の冒頭の※を参照。

目 次

ごあいさつ	1
1 沿革	4
2 写真でみる館のあゆみ	8
3 博物館事業の記録	
(1)特別展・催物展・企画展	12
(2)常設展示	66
(3)教育普及活動	78
(4)博物館交流事業	86
4 コレクションの概要	88
5 刊行物	100
6 資料	
(1)博物館協議会歴代委員一覧	102
(2)関係条例等	103
(3)施設の概要	109
(4)職員名簿	112